4 「兵庫夢錦」生産振興における現場の取り組み

1 西播磨酒米振興会での取組み

西播磨地域の酒米生産はJAかみしか、JAしそう、JA西播磨、JA揖龍、JAさようを柱とする西播磨酒米振興会が中心となって取り組まれている。5つのJA全体で約400ha栽培され、最も栽培面積の多いのは、JAかみしか管内の夢前町で約半分を占めている。

「兵庫夢錦」は倒伏しにくく、大粒で、心白の発現状況がよく、旧系統名の「兵系酒47号」で試験栽培されていた時から注目されていた品種である。

「兵庫夢錦」は、1993年に県奨励品種に指定された。このため、1994年には従来の「灘錦」から「兵庫夢錦」へ品種転換が一斉に進められ、現在では各産地でこの品種に対応した栽培技術の確立が進められている。

(1) 施肥設計の統一と栽培技術の向上

酒米は一般の食用米と異なり、大粒であること、心白が鮮明でかつ中央部にあること、タンパク質含量が少ないこと等の酒造適性が要求される。実需者である酒造会社の評価を高めるため、1998年度には、5つのJA間で西播磨統一の施肥設計として、「マップ264」と「シリカリン」を用いた展示ほが設置され、収量よりも品質を重視した酒米生産の取り組みが始まった。この取り組みは、2001年からのJAの広域合併に備えた営農指導方針の統一でもある。

また毎年、各産地ごとにモデルほを設置し、関係者の参加のもと現地検討会を開催して、栽培技術の研鑽に努めている。

(2) 契約栽培の徹底

酒米の安定供給と価格維持を図るため、生産は産地と酒造会社による契約栽培方式で進められている。

この契約栽培は、12月に経済連姫路支所が中心となり、酒造会社の購入申し込み希望数量から酒米栽培面積を算出し、各JAに面積配分を行う。それを受けて各JAは栽培面積の確保に努めている。生産された酒米は全量JAが集荷、一元販売されている。

さらに組織の結束力を高めるため、単独の酒造会社への売り込みや種子及び苗の横流しの禁止を徹底している。

2 夢前町における取り組み

JAかみしかでは、2月に夢前町酒米振興会を通じて、集落ごとに面積配分を行っている。

生産の安定に向けては、年3回の発生予察による病害虫対策の徹底、管内7支店におけるアメダス気候データベースを基にした出穂期・成熟期の予測、穂肥診断による適正な肥培管理、また9月には刈り取り適期の判断のための巡回指導等を実施している。

しかし、1999年は紋枯病が多発し、屑米の発生が多く、精玄米比率が低かった。また、カメムシによる斑点米も年々増加している。さらに労働力不足も徐々に顕在化している。

今後は担い手育成の問題に取り組みながら、西播磨酒米振興会をはじめ各関係機関の連携・協力のもと、生産計画に即した良品質酒米の安定供給基地として「兵庫夢錦」の生産振興を図っていく。

木村　俊昭（神飾農業協同組合）